

中心静脈カテーテル留置を受けられる患者様へ

秋田大学医学部 泌尿器科

【中心静脈輸液について】

中心静脈輸液は、手術前後や体力消耗が著しい患者さん、食事での栄養摂取が長期的にできない患者さんに対し心臓の近くの太い静脈に太さ約 2mm の細い管(中心静脈カテーテル)を挿入し、このカテーテルから点滴をする方法です。手足の血管には注入できない栄養素、高いカロリー、水分を補給が出来るのが特徴です。

【中心静脈カテーテル留置法】

主に鎖骨下、鎖骨上、鼠径部のいずれかよりカテーテル(細い管)を留置するため、同部位の皮膚に局所麻酔薬を注射した後、穿刺針を刺して静脈へ到達します。この針の中にカテーテルを通して留置します。

【中心静脈輸液の合併症】

カテーテル留置の際、細心の注意をはらい安全に努めますが、まれに以下のような合併症が起こります。

1. 麻酔薬による血圧が急激に下がることがあります。(以前に抜歯などでそのようなエピソードがあったかたは必ずお話しください。)
2. 注射針により周囲の臓器(肺、血管、神経、胸管など)を損傷することがあります。
3. カテーテル感染による発熱・敗血症、血栓性静脈炎などがあります。
4. 高血糖、肝機能障害、電解質異常

このような合併症が生じた場合には、薬剤の投与、輸血、追加の処置、手術を含めて最善の処置をおこなうことによりほぼ全例で回復可能ですが、極めてまれに生命に関わる場合があります。

年 月 日

上記について説明を行いました。 氏名

上記について説明を受けました。 氏名